

## 野外活動プログラム

活動名	<b>(9) 森のハウスづくり</b>			
内容	「ハウスの森」の中で、間伐材やレジャーシート、ロープ等を使って、自分たちだけの森のハウスを作ります。完成したハウスで、のんびりと休憩したり、お弁当を食べるなど、ふだんとは違う楽しさが味わえます。また、森のハウスを基地として、他のさまざまな野外活動を行うこともできます。グループの全員が自由な発想で意見を出し合い、協力して作り上げることが大切です。			
条件	場所	ハウスの森	対象	小学校高学年以上
	時間	3～5時間（片付け1時間）	人数	160人まで(1グループ5～10人)
	時期	通年	天候	小雨可（要相談）
期待される教育効果	(1) 協力してハウスづくりに取り組むことで、グループの協調性を養う。 (2) 活動することにより、自然に親しむ態度を育てる。 (3) 決まった材料を使って、ハウスや遊具を作ることを通して、創意工夫の力を高める。			
準備物	自然の家が貸し出す物		団体が準備する物	
	<input type="checkbox"/> 丸太 <input type="checkbox"/> はしご <input type="checkbox"/> 木の保護用タオル・ござ <input type="checkbox"/> ブルーシート	<input type="checkbox"/> 竹 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> 無線機	<input type="checkbox"/> 動きやすい服装(長袖、長ズボン、運動靴) <input type="checkbox"/> 軍手 <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 雨がっぱ(天候急変時) <input type="checkbox"/> レジャーシート <input type="checkbox"/> 救急用品	
展開	1. 事前（準備） (1) 当日までに下見を行い、貸出物品、危険箇所等を把握する。 (2) 自然の家職員と打合せをしておく。 (3) 当日の天候を見て、自然の家の職員と相談の上、実施の判断をする。 2. 活動前 (1) 代表者は事務室で無線機を受け取る。 (2) 自然の家職員同伴で、ピロティ倉庫にある貸出物品を取りに行き、「ハウスの森」まで運ぶ。 (3) ハウスの森倉庫前に集合し、点呼及び健康観察を行う。 (4) 職員の安全指導等の説明を聞く。 ① ハウスの材料や貸出物品の説明、貸し出しと後片付けの方法 ② 全体の流れ、安全上の注意 3. 活動 (1) グループで話し合っ、作るものの構想を練る。(簡単な図を描くのもよい) (2) 必要な材料を取りに行き、協力してハウスづくりを行う。 (3) 指導者や引率者は、安全面の管理以外は、介入を控える。 (4) できあがったら、安全を確認して遊ばせる。 4. 事後（片付け） (1) 安全面に配慮しながら、解体を行う。 (2) 貸出物品の個数を確認し、材料、貸出物品を元の場所にもどす。 ※降雨等により貸出物品が濡れ場合は、乾燥後に返却する。 <u>貸出物品の片付けのために、後日、来所していただく場合があります。</u> (3) 代表者は事務室に無線機等を返却する。			
安全管理ポイント	<input type="checkbox"/> 実施の可否は、自然の家職員と相談の上で決定する。 <input type="checkbox"/> 指導者の目の届く範囲で活動をさせる。 <input type="checkbox"/> 木材で床を作る際は、ひざの高さより低く作らせる。 <input type="checkbox"/> はしごを使用する際は、必ず他のメンバーがはしごを押さえる。 <input type="checkbox"/> 材料の組み方やロープの結び方を指導者が見たり触れたりして、倒れたり、落下したりするおそれがないかを確認する。 <input type="checkbox"/> 高いところに登っている参加者の周囲では、特に気をつけて行動させる。 <input type="checkbox"/> 騒いだり走ったりする参加者は適宜指導する。			

## 貸出物品

### 1. 丸太、竹、木のはしご



### 2. ブルーシート



### 3. ロープ



### 4. タオル・ござ（木の保護用）



- ・ 1は、ハウスの森の倉庫に置いてあります。
- ・ 2～4は、本館ピロティの倉庫内に置いてあります。

## 森のハウスづくり実施の手引き

### 引率者の心構え

- ねらいを明確にした活動計画を作りましょう。
  - 「何のために実施するのか」「どのように活用するのか」など、活動のねらいをはっきりさせて計画を作りましょう。
  - ねらいや参加者の体力に応じて、コースや活動時間を決めましょう。
- 引率者（団体の責任者）は必ず事前の下見を行いましょう。

下見をすることで、危険箇所の把握及び的確な指導法の発案などに役立ちます。
- 活動における注意事項を徹底するための事前説明（学習）を行いましょう。

森の中での活動は危険を伴う場合があることや、活動のねらいをしっかりと伝えるためにも、事前説明を行いましょう。
- 直前の気象情報を把握してから活動しましょう。

長崎地方気象台HP等で天気予報が調べられます。これらの情報をもとに、自然の家の職員と相談の上、実施の可否を決定します。
- 活動中は環境への配慮を取り入れましょう。

森の美しい環境は、絶妙なバランスの上に成り立っています。環境に負担をかけないように十分配慮しましょう。
- 事後学習の機会を設けましょう。

森の環境と身近な環境の違いや、ハウスづくりで築かれた人間関係など、ねらいに合わせた振り返りをしましょう。

<p>安全な活動のための準備</p>	<p>1. 服装, 装備</p> <p>(1) 長袖、長ズボン、軍手、帽子の着用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の中での活動は、夏でも長袖、長ズボン、帽子が基本です。肌の露出は控えましょう。</li> <li>・軍手を必ず着用しましょう。素材は問いません。</li> </ul> <p>(2) 運動靴と靴下を着用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履きなれた運動靴を履きましょう。脱げやすいものや底がつるつるのものは滑りやすく危険です。</li> <li>・足が固定されるように厚手の靴下を着用しましょう。</li> </ul> <p>(3) 雨具の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山の天候は変わりやすく、予想外の降雨等も考えられます。防寒具としても使えますので、必要に応じて雨がっぱ等を準備しましょう。雨がっぱは上下に分かれる物が使いやすいです。</li> </ul> <p>2. 事故に備えての対応</p> <p>(1) グループに傷病者が出た場合、誰が、どのように対応するかを事前に決めておきます。</p> <p>(2) 万が一の事故に備え、諫早自然の家、学校、保護者等の関係者への連絡方法を決めておきます。</p> <p>(3) 引率者は、絶えず参加者の所在と健康状態を確認することが大切です。</p>
<p>自然の家来所前に指導していただきたいこと</p>	<p>(1) 体調を万全にして臨む。</p> <p>(2) 活動前に服装などをお互いに点検する。</p> <p>(3) 活動中は班行動をとる。</p> <p>①単独行動は、けが等の原因になります。また、体調が悪くなる、けがをするなどして動けなくなった場合に、引率者との連絡が困難になります。</p> <p>②万が一誰かがけがをしたり、具合が悪くなったり、動けなくなったときは、ただちに近くの仲間や引率者に知らせ、助けを求める。</p> <p>(4) 自然保護の視点から、木にロープを巻きつける際には、必ずタオルを先に巻いて、樹皮を傷めないようにする。</p> <p>(5) 安全に活動するために、次の5つのことを守る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①指導者の目の届くところに作成する。</p> <p>②床（人が乗る部分）は、高くなりすぎないようにする。 (ひざより上には作らない)</p> <p>③はしごを使う際には、必ず下で誰かに押さえてもらう。</p> <p>④遊具を作った場合には、最初に必ず大人が乗り、安全を確かめる。</p> <p>⑤丸太などの移動のときは、周囲に人がいないかを確かめる。</p> </div> <p>(6) ヘビやスズメバチ等の危険動物を発見したら、全員に注意を喚起する。</p> <p>(7) 貸出物品は、汚れを落とし、きれいにたたんで（結んで）返却する。</p> <p>(8) 活動終了時はきちんと靴の泥を落とす。</p>
<p>活動中止等の基準</p>	<p>(1) 落雷の危険がある際には中止する。</p> <p>〈基準〉・雷警報が発令されている。または、雷鳴が聞こえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雷注意報発令中で、気象レーダーで雷雲の発生が見られる。</li> <li>・自然の家事務室のサンダーメーターが作動した。</li> </ul> <p>(2) 強風の危険がある際には中止する。</p> <p>〈基準〉・自然の家事務室の風速観測機が風速8mを越えた。</p> <p>(3) 雨の予報がある際には、活動実施の可否を検討する、</p> <p>※小雨でも実施可能ですが、貸出物品は乾燥させて返却する必要があるため、雨等で濡れた場合、後日、返却のために来所していただく場合があります。</p> <p>〈基準〉・長崎地方気象台 HP 等で天気予報を調べ、活動時間中に降雨の予報がある。</p> <p>※実施に不安がある場合は、遠慮せず事務室に相談にお越しくください。</p>

## ロープの結び方

### 1. もやい結び

《特徴》・救助される人に使用する基本的な結び方。

・結び目が移動せず、腹部が締め付けられないことがない。

①



・図のようにロープを身体に巻く。  
(左手部分を長く、右手部分を短く)

②



・ロープの右端を右手の甲に乗せる。  
・右手で左手のロープをつかむ。

③



・右手を時計回りにねじる。

④



・右手を開き、左手のロープをつかむ。

⑤



・矢印の方向に、ロープを引っ張る。

⑥



・左手で図のように輪の結び目を持つ。  
・ロープの右端を右手で持って、左手の輪へ、下から通す。

⑦



・通したロープの端を折り返し、右手で持つ。

⑧



・右手は固定、左手でロープを引き、形を整える。

※これで、『もやい結び』は完成です。しかし、急に大きな力が加わると、結び目が反転して、ほどけてしまうことがあるので、その防止のために、⑨～⑩で『端末処理』を行います。

⑨



・図のように、結び目をややゆるめる。  
・左手の輪へ、下方向から右手のロープを通す。

⑩

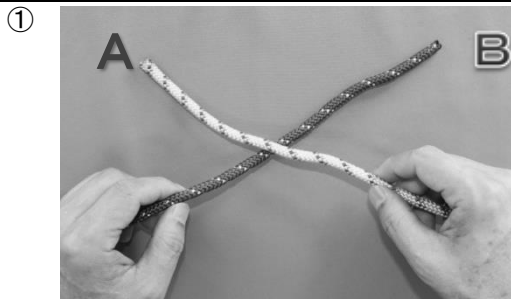


・輪へ通したロープを、矢印の方向へ引く。  
※これで、『端末処理』の完成です。

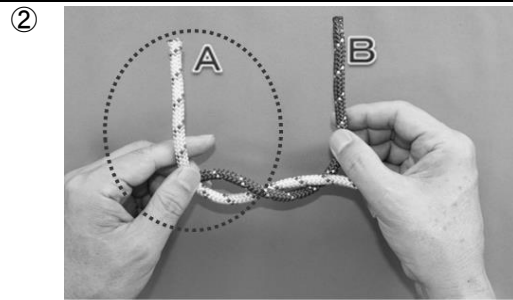
## 2. 本結び

《特徴》・1本のロープの端と端を結び合わせるときに使う最も有名な結び方。

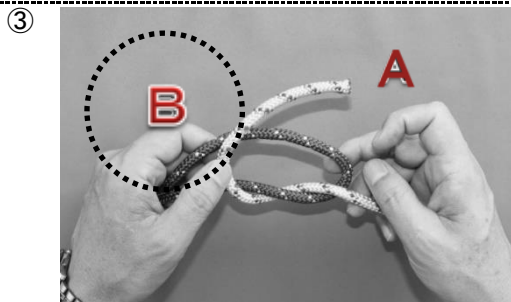
- ・簡単に結べてほどこきやすいので、包帯や風呂敷の結び方として利用されている。
- ・2本のロープをつなぐときには、解けやすいので用いないこと。



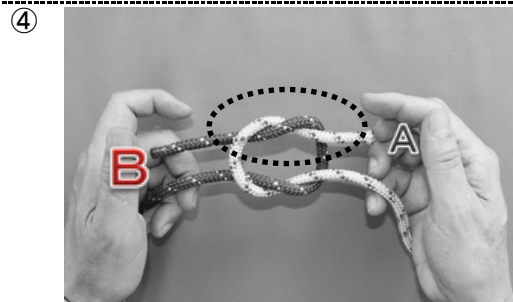
- ・図のようにAとBを交差させる。



- ・AをBに1回転まきつける。



- ・図のようにAとBをからませる。



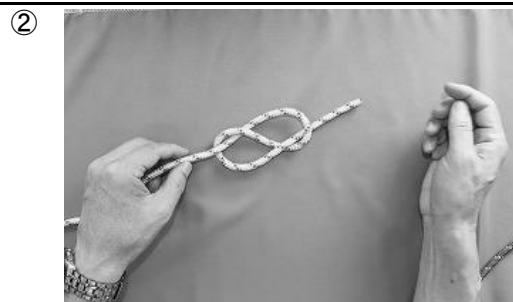
- ・点線の部分のようにAをBにからませる。
- ・両方向へ引いて結び目を締めて完成。

## 3. 8の字結び

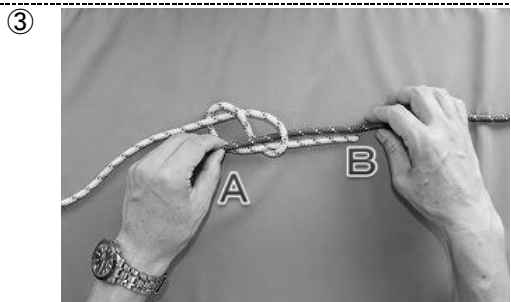
《特徴》・命綱を身体に結ぶ際に用いられることもある信頼性の高い結び方。



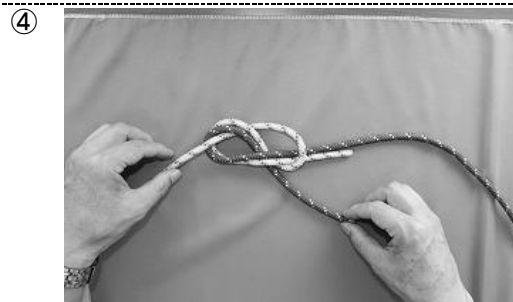
- ・ロープを図のようにねじる。



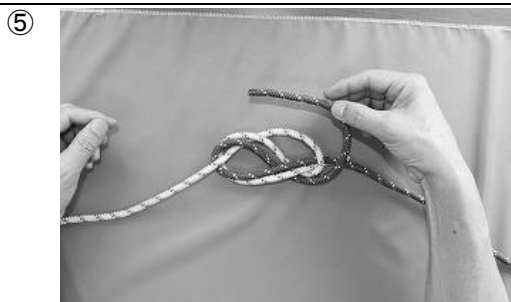
- ・図のように、8の字結びを作る。



- ・黒のロープの先端Aを、白のロープの先端Bの方から逆にとどっていく。



- ・白のロープを逆にとどっていく。



- ・白のロープを逆にとどっていく。



- ・全体の結びを整えて、左右に引いて完成。